SS研座談会 第2回「マンガと図書館」 討議サマリ

❑ 開催日：2014年3月18日(火)　❑ 場所：京都国際マンガミュージアム / 富士通(株)京都支社

マンガ文化全般について

- 日本のマンガが世界で注目されるのは読者が高度化しているため。オタクと呼ばれる読者達がマンガ文化を形成しているが、誰もそこには言及しないのが現実。
- 最近は美術館でもデータ化しプリントアウトしたものから展覧会を行っている。昔は原画でないのは何事かという風潮だったが、今では見る方も納得している。これは送り手と受け手、双方のレベルが上がっているといえよう。
- マンガはタブーと思われるブラックな部分まで表現してしまうが故に毒物と同じ。普通のアートは美や真を追求するが、美のために本当はおいしい毒物を切り捨ててしまっている。
- マンガ文化は一般的にそれほどの価値がないと思われているのが実状。文化として残すためには、マンガを守りたいから国にお金をくださいというのはなく、マンガにもっと価値をつけることを我々が考えていかなければならない。
- 現在の法律では、複製は描いた人でしかできない。研究者の複製行為は図書館でしか行えないが、ほとんどの図書館にマンガは置かれていないので困っている。

デジタル機器の進化

- 学生たちはタブレットでマンガを描いている。データだから原画も不要だし、それを買取る業者もいる。出版することへのハードルが低い時代になった。
- 我々は製本の感触を重んじているが、生まれてから電子書籍に慣れるこれからの子供達にはデジタルデータが当たり前になるかもしれない。
- そのうちコンピュータも進化して初版本の手触りも残せるかもしれない。

図書のアーカイブ化の問題

- 物理的にアーカイブしていくと容量が圧倒的に増え続けるため、専用施設が必要になってくる。京都国際マンガミュージアムも館内に収めきれず、外部倉庫で保管している。
- 紙媒体は将来に残すには優秀なデバイスだが必ず劣化する。それを考えると、今後出版するものは全てデジタルデータ化しておいた方がいい。
- デジタルデータは消失したときのリカバリーの観点でまだ不安が残る。一方、紙媒体は、たくさん印刷するので残る可能性が高い。
- 今は印刷主流だが、コスト面からWebなどに変わるかも。但し、そうなるとビューアの問題が出てくるかもしれない。
- アーカイブ情報を国の機関で保管する場合、国が止めようと思えばすぐ閲覧禁止にできてしまう可能性もあり、網羅性・完全性を保全できなくなってしまう。
- アーカイブする所が国会図書館のような国の機関なのか、アメリカの某財団のような私設の機関なのか、我々がしっかり考えるべき岐路にあるのではないか。
- 保管にあたっては、著作権の問題があるかもしれないが、紙にしろデジタルデータにしろ、リスクの観点から一カ所集中より分散させることが重要だ。

マンガの図書館に求められるサービスとは

- 図書館は著作権の複写権をオミットしているので、図書館に入れてあれば複写は可能になる。これは図書館におけるサービスとしておいしい機能だと思う。
- 紙媒体、デジタルデータ、いずれにしろ完全性、網羅性を担保する仕掛けが重要で、その機能を図書館が持ってほしい。

以　上

All Rights Reserved, Copyright© サイエンティフィック・システム研究会 2014